



P.2-5

特集

3・11から15年目  
「ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷」まだまだ続けます！



せたがやキラリ人 P.6

～アンデスの風を日本に！～ 桑原 健一さん



せたがや  
災害ボランティアセンター レポート P.7

区内で発生した豪雨被害に際し災害ボランティアが活動しました

おたがいさまピュー P.8-P.11

好きなことをボランティア活動にするヒントをさぐる交流会を開催します  
ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ

# 3・11から15年目 「ふくしまっ子リフレッシュパーク世田谷」まだまだ続けます！



羽根木プレーパークにて全員で記念撮影

い公園で思いっきり外遊びをしてもらおうと考えたのが、「ふくしまっ子リフレッシュパーク世田谷」。その時から「福島」と「世田谷」が一直線でつながりました。

## 原発で作られた電気を 世田谷で使っている・・・

2026年3月11日は、東日本大震災、そして福島の原発事故から15年。もう15年とも思いますが、福島の今の状況を考えれば、まだ15年という気もします。区内のさまざまなグループが「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」というネットワークを組んで、福島の子どもたちを世田谷に呼び、広

15年前の3・11、地震と津波による被害は甚大なものでした。が、とりわけ福島の原発事故は、東京に暮らす私たちに大きな衝撃を与えるました。私たちが東京で使っている電気を作ってきたのが福島の原発。そこに大きな事故が起り、原発周辺に住む人たちはただちに避難することを余儀なくされました。3月15日、大量の放射能が風向きによつては200キロ離れた東京にも降り注ぐ可能性があり、外出できなかつたという緊迫感があつたことを昨日のことのように思

いです。  
寄稿／星野 弥生（セボネ編集委員・福島の子どもたちとともに・世田谷の会代表）

福島で一方的に被害を被つた子どもたちはどうなのか。参加者の中から沸き起つたのは、原発で作られた電気を大量に消費してきた東京に暮らす私たちが、せめて「福島の子どもたちにできることはないだらうか？」という切実な声でした。

その声をどうしたら実現でき

い出します。  
突然襲いかかった原発事故、いつたい私たちの生活にどんな影響を与えることになるのか。まずはきちんと知りたいと思い、「世田谷こどものちのネットワーク」では、環境活動家の田中優さんによる講演会を開き、海や魚の汚染についてグリーンピース・ジャパンのスタッフの人たちの話を聞きました。夜の時間帯でしたが、あふれるほどの人たちが子連れで参加してくれました。誰もがこれからを生きていく子どもたちのことを心配していました。

るだろうか。2012年の正月明けに、区内で子どもにかかる活動や市民活動を行っているいくつかのグループ、3・11以降新たにできた「世田谷こども守る会」などのグループが世田谷ボランティアセンターに集まり、すでに立ち上がっていた川崎の会のような「保養」の活動が区内でできないだろうかと話し合いました。先立つ資金も場所もなく、あるのは「何かしたい」という切実な気持ちだけでした。足りないものを官の支援に頼もうと区役所に後援を依頼しに向かいました。ところがおもいがけず「共催事業」とすることを提案されたのです。「区が先頭に立つて主催すべき事業だという声が自然に区役所内から上

がつてきた」と、保坂区長は当時を振り返ります。

## 「民」も「官」もできる!ことを

私たちが目指していたのは、福島の子どもたちが少しでも放射線量の少ない世田谷の公園で遊ぶという「保養」でした。「ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷」が事業になり、区内の二か所の宿泊場所、「大蔵第一運動場」と高齢者の保養施設「ふじみ荘」の一部を期間中に使わせていただき、教育委員会を通じて、このプロジェクトへの支援を区民に広く呼び掛けるチラシを、区立小中学校、幼稚園・保育園、区内のさまざまな施設に配布することができたのです。

## ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷

2024年度活動報告書\*

5万枚くらいのチラシを封筒に詰め、学校や園に届けていただきました（現在はオンラインでの発信になっています）。また、世田谷区社会福祉協議会は、街頭で支援のカンパをよびかけ、世田谷ボランティア協会はボランティアバスで世田谷と福島を結ぶ交通手段を提供してくれました。チラシを

こんなふうに「官」と「民」がそれぞれに出来ることを分担して2012年の春休みから始まつた「ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷」、2025年の冬休みには28回目を迎みました。延べ参加人数は1400人以上になります。

最初の頃は、春、夏に各2回、冬に1回と年に5回も実施していましたが、その後は春、夏、冬の年3回、夏は世田谷ではなく猪苗代に世田谷の人たちが行いました。2020年3月からはコロナ禍でやむなく断念。2022年冬に何とか再開し、今は春と冬の2回の実施です。

2か所の宿舎で毎回50人ほどをよぶことができてきましたが、とても好評だった大きなお風呂のあるふじみ荘が取り壊しになりました。使えなくなってしまったことは残念でした。そこを訪れる高齢の方々が、「福島からよく来ましたねえ」と暖かく子どもたちに接してくれたことは忘れられません。

受け取った親たちからはカンパがよせられ、ボランティアを買って出てくださる方々も。

\*ご希望の方は、世田谷ボランティアセンターのチラシラックにあります。または「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」星野弥生まで。(070-5554-8433)

せん。



小豆川先生のお話を全員で聞く

子どもたちに砧公園やたくさん冒険でできるプレー・パークなど思いっきり遊んでほしいというのが私たちの思いでしたが、それだけではない、一緒に来る親たちにとってもここは「リフレッシュ」の場であることが、話合いの中でもわかつてきました。「桜の花びらを触つてもいいよ、落ち葉を拾つてもいいよ」と子どもたちに言えるんだ」と涙を流して語ったお母さん。「福島では話せないことを一緒に語れる人たちがいる」と多くの親が言います。次第に福島が「住んでも安全

だから帰れる」と帰還を勧め、「なんで保養に行くんだ」と周囲から冷たい目で見られる、それでも子どもたち、自分たちがほんの数日間でも「自分を取り戻す」安心な時を過ごしたいと思う親たちが、世田谷で心を開いて語ることができ、そこから福島でのつながりに発展していきます。

世田谷めぐり、プレー・パーク、福島の現状を知る講演会

プログラムの中で世田谷の魅力を知つてほしいと考えたのが、世田谷線の一日乗車券を手にした「世田谷線ツアーア」。三軒茶屋のキャロットタワーから富士山やスカイツリーを眺め、世田谷線を乗りついで、松陰神社、豪徳寺を訪れ商店街で買い物をし、おしゃれなレストランでランチをし、沿線の公園で遊ぶ。私たちにとっても「魅力」再発掘の時でもありました。

去る12月の冬のリフレッシュでは、全家族が一緒にプラネタリウムに行き、子ども向けのプログラムを大人たちも十分に楽しみました。

た。最後の日の夜の「お別れお茶会」の前には、2年ほど前から福島と世田谷の人たちが一緒に学ぶ「講演会」を実施しています。福島でマスクが伝えない「眞実」をることは難しく、「世田谷で話をきて初めて知りました」と驚かれることが多いのです。

今回は、3・11以降福島で放射線量を測り続け、福島の今と未来を読み解く小豆川勝見先生。見えない」「おわない」「感じない」、「感覚ではわからないものが」を見つけようと、セシウムが原発事故で飛び出し、それを除去する除染の作業にはとてつもなく費用、時間がかかるなど、科学に基づく「事実」とてもわかりやすく楽しく話してくださいました。子どもたちも質問するほど引き付けられたようでした。

福島のお母さんたちは「子どもに知つてほしいと思っていましたことを一緒に聴けたことが本当によかった」。「放射能のことなども、子どもたちに話してこなかつたけれど、正しい情報を得ること

は必要で、勉強になりました」と  
日々に語りました。小豆川先生は  
「子どもたち、将来研究者になり  
ませんか？」セシウムの研究で  
世界一になるとか・・・」と子ど  
もたちをその気にさせていまし  
た。

子どもたちにとって一番の樂  
しみは、羽根木プレーパークで過  
ごす一日。冬でも水浸しになり、  
どろんこになつて遊びます。大き  
なお釜でご飯を焼き、焚火の上で  
は大鍋のハヤシライスがいい匂  
い。3杯も4杯もお替わりする子  
どもたちも。事業のパートナーで  
ある世田谷区からは区長や災害

対策課の職員が訪れ、一緒にラン  
チをする、というのも定例になっ  
ています。  
12年前に7歳の時に初めて参加  
した綾乃さんは20歳になります。  
度々世田谷を訪れ、たくさんの出  
会い、思い出づくりをしてきた彼  
女は、「参加の経験から人と人を結  
びたい、子どもにかかる仕事を  
したいと強く思うようになり」、  
春からは保育士になるそうです。  
嬉しいですね。「これからはボラン  
ティアのスタッフになってくれそ  
うです。

### 改めてリフレッシュの意義を考える

ほんの数家族しか受け入れるこ  
とができるない「リフレッシュ」に  
どんな意味があるのでしょうか。  
原発事故の後、福島の人たちを受  
け入れる保養のグループが全国に  
広がりました。しかし10年が経つ  
頃から撤退していくグループも増  
えました。お金、スタッフ、場所、  
持続するにはいろいろな困難があ  
ります。「世田谷の会」も議論し  
ながらここまで来ましたが、幸い  
なことに世田谷区が共に担つてく

れる事業もあり、ともかく「続  
けたい」と思っています。国は「福  
島の事故はなかつたこと」であ  
るかのように、原発の再稼働をよ  
び、交流を続け、福島の現実をよ  
り知っていく中で、原発回帰へのよ  
動きなどはありえないと確信しま  
す。

26回目のリフレッシュの学習  
会で、短歌を通じて福島を詠む  
福島の子どもたちを世田谷によ  
り、交流を続け、福島の現実をよ  
り知っていく中で、原発回帰へのよ  
動きなどはありえないと確信しま  
す。

会話は、昨年の「セボネ」4月号  
で紹介しました。三原さんが新  
潟の柏崎刈羽原発の再稼働決  
定に、朝日新聞でこう語っておら  
れます。「私たちの犠牲は、なかつ  
たことにされてしまうのでしょ  
うか。福島から新潟に避難した  
人も多い。どんな思いなのか、  
心が痛みます」と。そう、なかつ  
たことにしてはならない、絶対  
に忘れてはいけない。だからこ  
そ、2011年の原点に返つて、  
「リフレッシュ」活動を続けたい  
と思うのです。

# せたがやキラリ人

世田谷区を中心に活躍する  
キラリと光る素敵な方をご紹介します  
取材・星野 弥生



アンデスの風を日本に!  
**桑原 健一さん**  
くわばら けんいち

3年くらい前、川崎のフリースペース「たまりば」で行われたフルクローレの演奏会で、髪を逆立てた桑原健一さんは、ステージ狭いと跳ねまわっていました。南米のボリビアから戻ってきた健一さんにとって、「たまりば」は故郷のようなところ。生まれも育ちも玉川台の健一さん。小学校4年から、学校が好きでないなあと感じて不登校に。いくつかのフリースクールを訪ねた後、「たまりば」にたどり着きました。「同世代の気の合う人、話相手がいた」居場所で、ギターを見よう見まねで学び、いつかバンドをやりたいと思うようになります。助成金で楽器を買うことになつた「たまりば」にチャランゴ

奏者のTOYO<sup>草彅</sup>さんが来るようになり、たまたま中古の楽器屋さんでチャランゴを見つけた健一さんは、思わずバイトで稼いだお金で買つてしまいいます。それからはTOYOさんのレッスンに顔を出し、大学でフルクローレのバンドをやろうかと、大学には行かず東大の「民族音楽愛好会」に加わって2年間通いました。

3年目には大方の学生は就活しますが、健一さんはボリビアへの道を選びます。チャランゴを習おうと、2004年21歳の時に首都のラパスに降り立ちました。航空券のオーブンチケットを無駄にしたくないので、1年で日本に戻り、しばらく音楽活動。CDなども作って、2007年にもう1年。3回目は2011年1月から2018年12月まで。ボリビア生活は合わせて10年になります。ボリビアではグループや一人での音楽活動、日本語教師、通訳などの仕事をしていました。

ホームステイ先で出会ったエリカさんと2011年に結婚し、

世田谷に戻つて来た時には、息子の龍星くんは小学校1年になつてました。日本では主に「3人アンデス」「東京リヤマ計画」という面白い名のグループで全国ツアーや展開しています。

ボリビアで日本人の演奏家としてテレビに出演した時に髪を逆立てて目立つようにしたのが今もずっとトレードマークに。ステージで元気に飛びはねる「芸風」も、

テレビ映えのために跳んでいるうちにだんだんエスカレートし、チャランゴを縦に持つて跳ねまわります。あまり跳ばないと「大丈夫? 元気?」と心配されるそう。観客もつられて動き一体感が生まれます。全国ツアーや中の2月には世田谷でも「東京リヤマ計画」のライブがあります。

不登校から「たまりば」、たまたまチャランゴと出会いボリビアへ、家族とともに日本に。42歳の健一さんのたどつてきた道は、まさに「出会いをものにして生きるから」で生きてきた人生。心から拍手を送りたいです。

<演奏予定>

[日時] 第一回 2/14(土)18:00 開演、第二回 2/15(日)14:00 開演

[場所] サローネ・フォンタナ (世田谷区祖師谷4-9-24)

[料金] (各回)一般 3,500円 / CD付きプラン 5,000円 (学生 1,000円引き)

\*詳細は右記二次元コードからご確認ください。



# せたがや災害ボランティアセンター報告

区内で発生した豪雨被害に際し  
災害ボランティアが活動しました

昨年11月号の本誌で既報のとおり、昨年7月と9月の豪雨により区内でも主に玉川地域と世田谷地域で大きな被害が発生しました。せたがや災害ボランティアセンターは、発災直後から相談を受け付けて現地調査を開始し、被災家庭の水抜き、物品の移動やごみの運び出し、清掃や乾燥、消毒などの支援活動を行いました。

被災された方からのボランティア依頼件数は7月豪雨で延べ18件、9月豪雨で延べ57件にもなり活動したボランティアの人数は7月豪雨で延39名、9月豪雨で延べ212名に達しました。活動期間も12月末まで及びました。

特に9月の豪雨では隣接する目黒区や大田区、さらに品川区なども含め広い範囲に甚大な被害があった中、世田谷区では、2019年多摩川水害や7月の被害への対応を教訓として各地区のまちづくりセンターとの連携を強化していくこともあり、迅速かつ

このように多くの力の結集により被災された方に寄り添つた的確な支援を行うことができ、共助の力の大きさを実感する機会となりました。被災された方々から多くの感謝の声をいただいていますので

被災された方からのボランティア依頼件数は7月豪雨で延べ18件、9月豪雨で延べ57件にもなり活動したボランティアの人数は7月豪雨で延べ39名、9月豪雨で延べ

柔軟な活動を行つことができました。活動にあたり、世田谷区、世田谷区社会福祉協議会をはじめ、登録ボランティアやボランティアコーディネーター、協力協定締結大学、資機材を提供いただいた団体（昨年11月号の本誌に掲載）など多くのご協力をいただきました。特に今回は世田谷区内が被災場所となつたため、地域拠点（サテライト）を立ち上げることなく、多数のボランティアが地元から参加され、専門技術を有する方々と共に活動することで多くのノウハウを提供いただき、全体のスキル

併せて報告いたします。  
今回は、災害ボランティアセンターを常設する強みを発揮して被災者の生活再建に寄与できました  
が、当センターとしても今回の活動で得た教訓を今後の備えに繋げていきます。

気候変動の影響もあり台風や大雨の被害が激甚化している今、区内の誰もが被災する可能性があると言わざるを得ません。今後も、「ご自宅が被災された場合や、「ご近所でお困りの方がいらっしゃたら、ご相談ください（「り災証明」の有無は問いません）。

<相談先>せたがや災害ボランティアセンター  
TEL: 03-5712-5101 (9時~18時 月・祝休)  
e-mail: saigai-info@otagaisama.or.jp

災害ボランティアとして活動を希望される方は、右記二次元コードよりご登録をお願いいたします。



## マーマレードづくりのボランティア募集

誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを目指す、NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブでは、マーマレードづくりのイベントを行います。一緒にマーマレードを作りましょう。できあがったマーマレード1個をお持ち帰りいただけます。

- 日時／1/25、2/1、2/8、2/22、3/1、3/15、3/22 いずれも日曜 10時～15時
- 場所／ウェーブ分室（弦巻2-39-11）
- 交通／東急田園都市線桜新町駅下車徒歩約10分
- 条件／持ち物：エプロン、頭にかぶる帽子やバンダナ。昼食付き。
- 問合せ／NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ 担当：一宮（いちみや）  
TEL：070-5457-7781

## 視覚障害のある方の散歩同行ボランティアを募集

視覚障害のある70代の女性が散歩をする時に同行していただけるボランティアを探しています。（途中、喫茶店や食堂に寄る場合があります）女性は多くのボランティアの方と接している方ですので、ボランティアが初めてといった方も安心してご参加いただけます。詳しくはお問合せください。お問い合わせお待ちしています。

- 日時／月・木・土・日曜のいずれか 11時～15時頃
- 場所／小田急線千歳船橋駅周辺
- 条件／休憩や昼食時の費用の一部を支給します。
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当：池田  
TEL：03-6411-4007 メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

## 小学校3年生といっしょに勉強をしてくれる女性を募集

駒沢公園近くにお住まいの小学校3年生の女の子が特に漢字で苦戦しています。明るい女の子です。宿題などに楽しく取り組めるよう、女の子のペースに合わせて一緒に勉強をしてくれる方、ご連絡お待ちしています。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月・火・木・金曜の16時～17時（月2～4回 1回1時間）
- 場所／自宅
- 交通／東急田園都市線駒沢大学駅
- 条件／女性（数名募集）、交通費応相談
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー 担当：市古（いちご）  
TEL：03-3707-3528 メール：tamabora@otagaisama.or.jp

## 世田谷区いずみ学級（知的障害者の青年学級）でボランティアしませんか？

いざみ学級は、知的障害のある人たちと、彼らを支え共に学び、活動するボランティアにより運営する学級です。一年を通してレクリエーションやクラブ活動、バスハイク、クリスマス会、ミーティングなどの活動をしています。学生や社会人、主婦など、老若男女問わずさまざまな人たちがボランティアに参加しています。資格等は不要です。知的障害のある人たちと関わることに関心のある方なら、誰でも参加できます。

- ボランティアの募集は年間を通じて行っています。詳細は世田谷区公式ホームページから、ページIDに3587を入力してご覧ください。
- 日時／月1～2回、日曜の9時50分～15時30分
  - 場所／世田谷中学校、八幡中学校、芦花中学校の3ヶ所で実施（外出行事もあります）
  - 交通／世田谷中学校：東急世田谷線若林駅徒歩10分  
八幡中学校：東急大井町線九品仏駅徒歩8分  
芦花中学校：京王線芦花公園駅徒歩8分
  - 問合せ／世田谷区教育委員会事務局生涯学習課 いざみ学級担当  
TEL：03-3429-4259

## 小学校 1 年生の送迎ボランティア募集

知的障害がある小学 1 年生の女の子の朝の送りを手伝ってくださる方を募集しています。自宅からバス停（環八沿い）まで徒歩で付き添ってくださる方を探しています。できれば障害のある方と接したことがある人を希望しています。いずれの曜日でも構いませんので、少しでもお手伝いくださいと助かります。お気軽にお問い合わせください。

- 日時／月、火、水、金曜のいずれか（週 1、隔週でも OK）。朝 7 時 45 分～8 時 30 分頃
- 場所／自宅（南烏山、京王線千歳烏山駅から徒歩 5 分ほど）から環八沿いのバス停まで
- 募集人数／数名
- 条件／女性希望、優しく接してくださる方。報酬 1,200 円 / 回（予定）
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー

TEL : 03-6909-0333 メール : karasubora@otagaisama.or.jp

## 小学校 5 年生男児の送迎ボランティア募集

知的障害がある小学 5 年生の男の子の朝の送りを手伝ってくださる方を募集しています。自宅からバス停（甲州街道沿い）まで徒歩で付き添ってくださる方を探しています。車に気をつけていただき、側で見守りながら同行をお願いいたします。いずれの曜日でも構いませんので、お手伝いくださいと助かります。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月、火、水、木、金曜の朝 8 時 10 分頃～8 時 25 分頃（週 1 ～でも OK です。）
- 場所／自宅（南烏山）から甲州街道沿いのバス停まで徒歩で
- 募集人数／1 名～数名
- 条件／報酬 1,200 円 / 回（予定）
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー

TEL : 03-6909-0333 メール : karasubora@otagaisama.or.jp

## 【急募】NPO フリースクール僕んち：有償スタッフおよびボランティアの募集

学校以外の、子どもの自由な学び・育ちの場。不登校を選んでいる子どもの選択肢のひとつ。自分らしく、伸び伸びと過ごせる居場所「僕んち」では常に、子どもや若者と寄り添い、「元気や不元気」を分かち合え、一緒に何かを産み出せる人材を求めています。具体的には、ものづくり・料理・ゲーム・多様な学び・アウトドア・合宿・キャンプなどなど、多岐にわたります。資格や肩書きは要りません。あなたらしい魅力で「僕んち」を手伝ってくださる方を募集しています。ご興味のある方のご連絡をお待ちしています！

スタッフ候補として興味をお持ちの方：採用を前提としたインターン生になっていただくこともできます。詳細はお問い合わせください。

- 日時／火曜・金曜の 10 時～17 時
- 場所／フリースクール僕んち（代田 4-32-17 サンハイツ B）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅徒歩約 10 分
- 問合せ／フリースクール僕んち 担当：高橋

TEL : 090-3905-8124 メール : bokunchi.fs@gmail.com

## 北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ

北沢ボランティアビューローの改修工事は順調に進んでいます。仮事務所では、会議室の貸出を休止していますが、他の窓口業務は行っています。

- 仮事務所での執務／2026 年 3 月まで（予定）
- 場所／世田谷区梅丘分庁舎（松原 6-3-5）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅北口下車徒歩 2 分
- 開館日＆時間／月～金曜日 10 時～17 時
- TEL : 03-3420-2520 FAX : 03-3706-2854 メール : kitabora@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は 1 月 17 日時点の情報です。

変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

## リサイクル市（バザー） 提供品受付のお知らせ@世田谷ボランティアセンター

世田谷ボランティア協会では、みなさまからご提供いただいた品物をリサイクル市（バザー）で販売し、その売上金を世田谷ボランティア協会が行うボランティア活動推進のための、さまざまなプログラム運営費用にあてさせていただいています。ご協力をお願いします。

- 回収日時／2月7日（土）10時～17時30分
- 回収対象／衣類、帽子、カバン、ベルト、ハンカチ、アクセサリー、靴下（未使用）、生活雑貨、おもちゃ、ぬいぐるみ 他
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅下車徒歩約12分
- 会場／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101

## もっと語ろう不登校 part.308

これまで31年間にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となっていました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／2月7日（土）14時～
- 場所／人の泉・オープンスペース "Be!"（赤堤1-15-13）、またはZOOMにて
- 交通／小田急線豪徳寺駅・世田谷線山下駅下車徒歩約7分
- 問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 佐藤  
TEL：090-9248-1355 メール：yurinoki11513@gmail.com

## バザー開催&ボランティア募集@玉川ボランティアビューロー

玉川ボランティアビューローでは、恒例のバザーを開催します。収益はボランティア活動推進費として大切に使わせていただき、「おたがいさま」で結ばれた地域づくりに役立てます。皆さまのお越しをお待ちしております！バザー・ボランティアも募集中です。詳しくはお問合せください。

### 【バザー詳細】

- 日時／2026年2月21日（土）10時30分～14時
- 場所／玉川ボランティアビューロー（東急田園都市線・大井町線二子玉川駅下車 徒歩約5分）
- ※駐車場はありません

### 【バザー・ボランティア募集】

- ①会場設営ボランティア  
日時／2026年2月16日（月）10時15分～12時30分
- ②バザー当日の販売・片付けボランティア  
日時／2026年2月21日（土）10時～15時
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー  
TEL：03-3707-3528 メール：tamabora@otagaisama.or.jp

## 個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101  
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

## 好きなことをボランティア活動にするヒントをさぐる交流会を開催します

楽器の演奏、歌の披露や手芸、書道、華道、囲碁・将棋など自分の好きなことがボランティア活動として誰かに喜ばれることがあります。ボランティアを受け入れている団体や、個人で様々な活動をしている方の話を聴き、ボランティア活動を始めるヒントを見つけましょう！

参加の予定は、障害のある児童が使用する布のおもちゃ作りをする団体、障害のある方の余暇活動を支援している団体、環境系（布のリサイクル小物作り・生ごみの堆肥作りなど）の団体、在日の外国人に日本語を教えている方、居場所作りをしている方、個人の生活をサポートしている方など。

申し込み・問い合わせは「ボランティア交流会参加について」と記載し、メール・FAX、お電話でお願いいたします。定員になり次第締め切ります。パティオのある、素敵な高齢者のデイサービスの施設を会場としてお借りします。

- 日時／2月 28 日（土）13 時 30 分～16 時
- 場所／成城パティオ（成城 2-40-5）1 階にソフトバンクが入る建物の 3 階
- 交通／小田急線成城学園前駅徒歩 2 分
- 参加費／300 円 ●募集人数／16 名
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 池田  
TEL：03-6411-4007 メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

## ちかくのとーく vol.12 三茶学 三茶でつくる、これからの仕事のこと

ちかくの活動をちかくの人に紹介するトークシリーズ「ちかくのとーく」。今年度は「三茶学」と称して、三軒茶屋エリアを3回にわたって掘り下げます。

今回のテーマは、「仕事」です。2019年に創業したコワーキングスペース「三茶WORK」の吉田亮介さん、2022年から本屋&ギャラリー&カフェ「twilight」（トワイライライト）を営む熊谷充紘さんをゲストに招き、三軒茶屋で仕事することについてお聞きします。また、会場ではまちづくりデザイナーの千葉晋也さんが板書で記録（グラレコ）しながら進行します。

- 日程／2月 28 日（土）14 時～16 時
- 会場／生活工房 ワークショップルーム B（太子堂 4-1-1 キャロットタワー 4 階）
- 交通／東急田園都市線・世田谷線 三軒茶屋駅 直結
- 参加費／会場 200 円、オンライン（Zoom）無料
- 定員／会場 20 名／オンライン 100 名（先着）
- 申込／右記の二次元コードを読み込み、お申込みください。
- 問合せ／公益財団法人 せたがや文化財団 生活工房  
担当：佐藤 メール：info@setagaya-ldc.net



## AI システムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト（世田谷版G E R 「ジーバー」）で結び付け、経験や希望に合ったボランティア活動を紹介します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は1月17日時点の情報です。  
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

## 世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



### 相談・お問い合わせ先

ボランティアについて▶【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】

災害ボランティアについて▶【せたがや災害ボランティアセンター】

リハビリについて▶【ケアセンターふらっと、ケアセンターwith】

訪問介護について▶【ケアステーション連】

介護プランについて▶【ケア相談センター結】

障害について▶【ぽーとせたがや、スペース ココカラ。】



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。